

第2回（仮称）古町地区将来ビジョン懇談会

日時：令和元年12月19日（木）午後1時～

会場：新潟市役所本館6階 講堂

（司 会）

ただいまから第2回（仮称）古町地区将来ビジョン懇談会を開会いたします。

私は本日の司会を務めさせていただきます、新潟市政策企画部の草間と申します。よろしくお願いいたします。

はじめに、配付資料のご案内をさせていただきます。本日お配りしました資料は、次第の下部の配付資料一覧に記載の4種類となっております。また、岡崎委員からの提供資料として、一番下に、「復活白山詣」と記載のA4カラー版のチラシをお配りしております。

次に、本日の流れについてご説明いたします。本日は議題として、2（1）第1回懇談会の主なご意見等について、2（2）（仮称）古町地区将来ビジョン（素案）についてがございまして、事務局より一括してご説明させていただきます、その後に、委員の皆様からご意見をいただきたいと考えております。なお、本日の懇談会は2時間程度を予定しております。ご協力をお願いいたします。

ここで、会議に先立ちましてお願い事項を申し上げます。本日の懇談会は、（仮称）古町地区将来ビジョン懇談会開催要綱第5条第3項の規定により、公開での開催となります。新聞、テレビ局より取材の要請がありましたので、撮影、録音等についてご了承ください。

また、所定の手続きに従い、傍聴の受付を済ませている方が6名いらっしゃいます。ご報告いたします。

会議概要につきましては、後日、新潟市のホームページで公開させていただきます。公開する内容につきましては、事前に委員の皆様にご確認いただきたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

なお、本日の会議は記録用として事務局で撮影、録音をさせていただきますので、ご了承をお願いいたします。

最後に、本日の委員の出席状況についてです。委員9名全員出席でございまして、なお、オブザーバーの田中所長から欠席のご連絡をいただいております。また、小沢委員は今回が初めての出席となりますので、一言ごあいさつをいただければと思います。

（小沢委員）

新潟商工会議所の小沢と申します。前回、出張で欠席したことおわび申し上げます。私は、今年53歳になりますけれども、下（しも）町に生まれまして、13年前まで下に住んでおりました。現在、寄居町に住んでおまして、商工会議所へは毎日古町を通過して通勤しております。子どものこ

ろから慣れ親しんだ古町の栄枯盛衰を見てきたつもりですし、初任のときに、大店法が古町衰退の一因となったところも見てきたということもあります。議事録を見せていただきましたけれども、いろいろなご意見が出ておりますけれども、よりよきものになるように意見を言っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(司 会)

ありがとうございました。

それでは議事に入らせていただきます。以降の進行につきましては、西村座長にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(座 長)

西村です。よろしくお願いいたします。

前は10月24日で、大変たくさん意見が出まして、それを基に資料を作っていたいております。この会議はあと1回で終わりという、すごく慌てている会議なのですが、今日も全員の方からコメントを頂きたいと思っております。よろしくお願いいたします。

最初に、この場所に思うことは、実は、私は新潟市役所はすごくラッキーだなと思っているのです。この場所というのは、皆さんご承知のように県庁ができたところなのですが、近代の始まりみたいなところなのです。新潟は17世紀にできたのだけれども、明治になって新しい制度を作っていくと、役所を作らなければいけないといったときに、港町だったから、そこには空間がなかったのです。城下町だったら武家地がいくらでも空いているので、いくらでも物が造れるのですが、どうしようかというときに、この場所、つまり白山神社の真横に、白山神社と同じようにまちを向いて、目の前に大きな東中通を造って。榎谷小路を突っ切って、奉行所を突っ切って、砂丘を乗り越えて左折するとここにぶつかるような、近代のすごく大きな事業をしたのです。となりの白山公園、白山神社は17世紀に作った都市計画なのですが、19世紀にこれを一番重要な場所として造ったのです。そういった場所を県庁がよく明け渡したと思うのです。この場所にいろいろな時代の英知が積み重なってきているのです。ご承知のとおり、白山堀に唯一架かっていた橋は古町のところなので、あそこは軸なのです。あれが17世紀の中心軸で、こちらは19世紀の新しい明治の軸を造ろうとしたと。それが東中通です。そういったところでいろいろな議論ができるのは、大変光栄に思います。

それでは、今日は古町地区の将来ビジョンに関して、前回のご意見と、その後、フォローアップしていただいているので、それに関して、1と2を基に、将来ビジョンの素案を作ってもらっていますので、まとめて事務局から説明していただき、全員のそれぞれからコメントを頂きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

事務局から順次説明させていただきます。まず、説明を始める前に、前回 10 月に開催させていただいた第 1 回懇談会では非常に多くのご意見を頂きました。ありがとうございました。また、懇談会の後、メール等でもご意見を頂きました。それらを踏まえて、今回、それらをなるべく反映されるような形で資料を作成したつもりでございます。本日もよろしく願いいたします。

今ほど座長からもお話しいただきましたように、議題（１）、（２）を一括して説明させていただきたいと思います。はじめに議題（１）主な意見とその対応でございます。この資料は 3 種類に分かれております。ブルーのベースで作成されたものが、懇談会のときにいただいたご意見をまとめたものと、その対応を事務局で考えたものでございます。その次に、グリーンのベースの資料がございます。こちらが懇談会后にメール等でいただいたご意見、それに対応する事務局の考え方を整理したものです。ベージュのものにつきましては、前回の懇談会の中で古町にかかわる方々からも直接ご意見を聞いたらいかがですかというお話をいただきましたので、我々、すべての団体の方を把握しているわけではないのですけれども、主に活動されている 3 団体の方々からご意見をいただいたところでございます。これら三つのものが一つにまとめた資料が資料 1 でございます。

はじめに、ブルーで色分けされた前回懇談会でのご意見とその対応等についてでございます。一つひとつの詳細な説明は省略させていただきますが、基本的な考え方として、前回の懇談会でもお話しさせていただきましたように、本ビジョンは、今後の古町地区に対する一つの方向性を示すようなランドデザインの作成と考えております。そのため、個々の具体的な提案や事業、取組みにあたるようなものについては、今後の検討という扱いにしておりまして、記載の方法もビジョン策定後に別途検討するというような表現にしております。いくつかあるご意見の中でも、本ビジョンの肝となるものとして、各エリアの特徴はそれぞれあるのだけれども、古町地区全体のまちづくりのコンセプト、このようなものが必要ではないかというご意見をいただいております。後ほど、ビジョンのご審議の中でご説明させていただければと思っております。

次に、グリーンに色分けされた懇談会後の意見でございます。主なものといたしましては、古町地区における主軸、副軸の考え方の整理や、各エリアの考え方などについてご提案いただきました。なるべく素案に反映できるものについては反映させていただいたところでございます。

次の黄色ベースです。各種団体へのヒアリングについてです。合計三つの団体の方々からご意見を聞いてきました。はじめに、路地連新潟の野内さんでございます。団体の紹介にも記載いたしましたが、路地連新潟はまちあるきを通して、子どもからお年寄りまで幅広い方々を対象に、新潟の歴史や魅力を紹介している団体でございます。また、まちあるきの中で使うマップの作成も自ら行っておりまして、まちあるき以外のさまざまな分野でも活用されているところです。主なご意見といたしましては、自分たちのまちを知ること、楽しむこと、そして発信することが大切であり、そのことが交流人口の増加にもつながるとおっしゃってございました。また、古町花街の昼間の活用に

関しても、何かいい案はないでしょうかと、昼間の活用についても視点を持っておられるということでございます。

続いて、NPO法人堀割再生まちづくり新潟の川上さんでございます。団体名からも分かりますように、堀の再生の必要性を中心に新潟の魅力を発信している団体でございます。主なご意見といたしましては、車の流入制限をかけて歩くことに重点を置き、堀と緑、歴史を生かした新たな人、物、活動を呼びかけていこうということになっております。堀につきましては、新潟の象徴としての活用を提案されている団体でございます。

最後は、新潟まち遺産の会の大倉さんでございます。団体の活動といたしましては、町家などの文化遺産の保存、継承、活用等となっております。シンポジウムの開催やマップの作成などの事業を展開しております。主なご意見といたしまして、新潟の歴史的建築物の保存、活用に向けた環境づくりの必要性とともに、古い物のよさ、大切さを次世代の関心につなげていくことが必要だというお話を頂いているところでございます。

以上のご意見を基に、ビジョンに反映できるものについてはなるべく反映させる形で素案を作成いたしました。なお、先ほどもお話しいたしましたように、個々の具体的な事業提案につきましては、ビジョンの策定後に別途検討という形で整理しております。

次に、古町地区将来ビジョン（素案）の内容についてということで、資料2の説明をさせていただきます。1ページ目の目次で素案の構成を確認していただき、2ページ目に、「はじめに」として、何のためにビジョンを作るかといった書き出しになっております。前回の懇談会でもご説明したとおり、新潟の都心機能の向上のために策定された「新潟都心の都市デザイン」の実現に向け、さまざまな取組みが始められている中で、この都市デザインの中で「旧市街地・開化ゾーン」と位置づけられている古町地区の将来像や方向性を共有するために、ビジョンづくりに取り組んでいるというところを記載しております。

3ページ目から8ページ目までは、古町地区の歴史を記載しております。前回の懇談会の中で、小路や通についてもストーリーがあるのだというご意見を頂いております。そのような事も含め、写真とともに、歴史や背景がイメージできるよう、いくつか記載を増やしたものでございます。

9ページは、古町地区の現状や課題ということで、「新潟都心の都市デザイン」に位置づけられている各ゾーンの中でも、「旧市街地・開化ゾーン」は新潟港が繁栄を極めてきた時代からの商業業務地区の集積地であります。港街の歴史や文化が色濃く残っている地区でございますので、この地区の地理と歴史を基礎にビジョンづくりを行わなければならないということを位置づけとして書いております。下段の現状や課題につきましては、平成29年度に作成されました古町地区活性化まちづくり調査報告書からの抜粋として、人口減少、郊外店の出店、生活スタイルの変化といった流れとともに、古町地区が変貌していく中で、まだ残っている歴史的街並みや芸妓などのみなとまち文化を維持、継承していかなければならないこと。それとともに、活性化の手法の一つでもあ

る交流人口の拡大というものも考えていかなければならないというところを明記しております。

次に 10 ページでございます。本来、このビジョンの肝となるべきものと事務局としては考えているコンセプトでございます。このコンセプトの構成でございますが、ピンクのべた塗りの四角で三つ用意しております。はじめに、ビジョンの魂ともなるべき基本的な考え方を簡単かつ明確に打ち出し、次にその中身をもう少し具体的に示した方針的なものを据え、最後の四角で古町にかかわるさまざまな人の総力を結集させていくといったところを記載したという 3 段構成でございます。なお、一番肝だと言っておきながらなのですが、一番最初の魂ともいえる基本的な部分につきましては、事務局として、決定打的な案が作れませんでした。参考資料 2 として用意しておりますが、後ほど、一旦全体をご審議いただいた後、皆様方の目線がそろった段階で、もう一度ここに立ち戻っていただいて、このコンセプトは副題としか書いていないのですけれども、ここを何らかの方向性を皆様方からご意見をいただければと考えているところでございます。したがって、今、ペンディングとしている状態でございます。

真ん中の方針のところでございます。方針につきましては三つの柱を作らせていただいております。先ほども申し上げましたように、古町が持っているみなとまち文化を大切にするとともに、コトやモノを次の世代に届ける視点を明確にするということ。また、住んでいる人にも、また観光で訪れる人にも、みんなが気持ちよく過ごせるようなまち。歩く、見る、食べる、体験するなど、だれにとってもちょうどよい、そんなまちを目指していくというところでございます。

方針の三つ目でございます。どうやって取り組むみたいなところを表現したもので、まちづくりはやはり人ですよね、というところを明記したところでございます。古町地区も含めて、まちはこれまで長い時間の中で、そこにかかわってきた多くの方々が作り上げ、育て上げてきたものと考えています。私たちが今の一瞬を引き継いでいるだけであるといった考え方に立ち返り、その後の時代に受け渡していくべきものといった思いを記載したところです。このコンセプトのページにつきましては、一通りご議論をいただいて、もう一度、頭のところに戻るという前提でお願いしたいと思っております。

続いて 11 ページと 12 ページですが、前回の懇談会でおおむねご了解をいただいた本ビジョンの対象区域とそのエリア分けを示したものでございます。13 ページ以降から、エリアごとの性格、色づけし特徴的なものを打ち出したページです。13 ページは、各エリアの性格を一覧にしたものです。各エリアの言葉づかいなども含めてご意見をいただければと思います。この一覧について一つひとつ説明させていただきます。

はじめに、オレンジの古町花街エリア（ポートヒストリーエリア）としまして、「湊町新潟の歴史と文化が薫るまち」という副題をつけさせていただいております。説明書きの中には、食文化中心に記載しておりますが、やはりこの区域にはいまだに残る歴史的な建築物や、芸妓を含めた花街、柳都の歴史文化を体験できるソフト、ハードを含めた歴史文化の伝承エリアという位置づけをとら

せていただきたいと思っております。

次に、榎谷小路エリア（古町ステーションエリア）として、「新潟の今と歴史が交差する」という副題としています。榎谷小路につきましては、業務機能が集積されておりますが、直交する形で、本町通り、東堀、古町通り、西堀といった各通りへの出入口機能を持っていると考えております。そのようなところからステーションエリアとしております。また、新潟駅からバス等で榎谷小路に来ますと、さらにここを起点にしまして、徒歩で、またレンタサイクル、ベロタクシー、巡回バス、観光タクシーでといったさまざまな手段に乗り換えて、古町地区を含めた新潟島全体へ移動する機能もあるのではないかとということで、ステーションエリアといった表現をさせていただきました。

続いて、古町モールエリア（メインステージエリア）です。昔から古町といえばオーバーアーケードのある5番町から7番町がイメージされるほど中心的な存在と考えております。これからもその機能を発揮してもらいたいと考えており、メインステージエリアといたしました。また、セレクトショップやファッション等専門的な個店とともに、マンガの家や演芸場なども含め個性的な業種が集合していることや、天井の高いオーバーアーケードが天候に左右されずさまざまなイベントに活用できる空間を生み出していることから、「ヒト・モノ・コトの交流舞台」と表現しております。

緑色の本町エリア（ニイガタリアルライフエリア）でございます。ここは色づけのままの表現をさせていただいております。これまでも、これからも地域に根づいた食等を中心とした地元の味と人情が楽しめる生活感のあるエリアという設定になっております。

上古町エリア（ミックスマルチャーエリア）でございます。白山神社からつながる門前町でございます。新旧混在しながらもリノベーションを施しながら、底層の店舗が連なる外観となっており、若者のお店から高齢者向け、また飲食、物販を含め、古さと新しさを備えた新たな可能性のあるエリアとして位置づけております。副題として「古さと新しさのある白山公園に続く文化門前町」と表現いたしました。

次のページからA3の図面になります。各エリアごとの今後の方向性をスケッチ画とコメントを用いてイメージ化してみたものでございます。今後の方向性を記載するとともに、イメージ化にあたりましては、場所を極力固定、具体化せずに、該当エリアがこのようになったらいいのではないかという思いでスケッチ画としております。また、脇にいくつか挿絵がございますが、このエリアの活用例的な取組みや事業を参考までに記載したものでございます。エリア全体の方向感をつかんでいただければと思っております。

今回、スケッチでは、緑地の部分だけ緑色に塗っていますが、最終版はフルカラーでいきたいと考えております。

各エリアごとに簡単に説明させていただきます。参考資料1としてA4の1枚のものをつけさせていただきました。これからご説明させていただく各エリアごとの図面の方向、だいたいこんなところからだということが分かるような矢印を入れておりますので、参考にしていただければと思

ます。このページの①から⑤までの画がここに入っているということで、画としては最終的にまだ考えている部分がありますが、今回は①から⑤までを提示させていただいているところです。

①古町花街エリアでございます。歴史的建造物の保存と活用をメインに考えていくエリアとして設定しております。底ですとか色調、材質感といった、歴史的な趣を感じる街並みを形成させたいと考えております。また、すでに鉄骨等で建っている建物につきましては、外観を歴史的なものにあわせるような形で修景を図っていければというエリアと考えております、また、エリアの雰囲気醸し出すツールの一つといたしまして、挿絵でいくつありますが、花街の入口にシンボリックなもの、例えば石灯籠があったり、門や門柱みたいなものを設置し、ここからは別世界が始まる的な感じが出せればと。そんな工夫もあつたらいいなということも一つの提案として考えているところでございます。引出線でも記載しておりますが、昼も夜も魅力を伝える工夫として、歴史的建造物の保存といったハードとともに、昼間も楽しめるお茶屋があるなど、ソフト面での取組みも必要ではないかと考えています。ちなみに、大きい画の真ん中に歩いている人がいるのですが、これは芸妓さんではなくて、レンタルの着物を着て歩いている観光客というようなイメージです。昼間の使い方の例として、こういったものはどうだろうかと考えているものでございます。

次に、柘谷小路エリア（古町ステーションエリア）でございます。「新潟の今と歴史が交差する」という副題をつけておりますが、ステーションエリアと位置づけ、ここから上方向、下方向、本町通等、各エリアへの動き出しが始まる場所と考えております。公共空間を活用したカフェですとかポケットパークなど、ひと呼吸つけるくつろぎのスペースと、レンタサイクルなど使いやすい移動ツールの配置を考えております。また、高齢者にも優しい配慮といたしまして、お年寄りでも渡りやすい横断歩道、長い歩行者信号を設置するとか、無料で使える買い物カートの貸し出しみたいなことも、このエリアでは必要なのではないかと考えているところでございます。ステーションエリアの機能の一つとしてご紹介しております。

3番目、古町モールエリアでございます。古町といえばオーバーアーケードのある5番町から7番町というイメージがあるくらい、昔からの中心地でございます。さまざまな業種、業態が混在し、賑やかさや華やかさが残る街並みとともに、やはり売りは天井高のある全天候型の空間となりますので、雨を気にせずに買い物、イベントが可能で、夜も明るいという特徴があるかと思えます。それらを生かし、公共空間を活用したイベント、休憩スペースとともに、サイン装飾ですとかアート・カルチャー作品などにあふれた、歩くだけでも楽しい空間を作っていければと考えております。なお、この図面の下に若干書いてあるのですが、ハードルがだいぶ高くなると思うのですが、アーケードの天井高さを生かし、デッキやテラス席など2階レベルでの賑わいなど、立体的な街並み、空間が作り出せるのではないかと考えています。さらなる魅力アップということで、そういったこともイメージしているところでございます。

続いて、4番目の本町エリアでございます。副題として記載しましたように、「地元の味も人情

も楽しめる」場所として考えております。このエリアは食を中心とした生活感あふれる空間とし、これまでも、またこれからもその雰囲気を伝えていきたいと思っております。こちらにもオーバーアーケードがあります。全天候型を生かしながら、地元のローカルフードが食べ歩きでできる飲食店など、地元新潟ならではの味を楽しめる空間としながら、朝市、夜市、軽トラ市みたいなさまざまな市の開催ですとか、そのあたりの運用面での配慮が必要な空間ではないかと考えております。なお、来訪者への配慮といたしまして、ベンチ、テーブルといった高齢者の方々をはじめゆっくりと過ごせる居場所をイメージするといったことも考えております。

最後に、上古町エリアです。副題でも表現しておりますが、「古さと新しさのある白山公園に続く文化門前町」でございます。資料の左下のその他にも記載しておりますが、レトロな街並みに新たな機能がミックスされた独特な魅力の空間となっております。例えばハンバーガー屋がある一方で、すぐ近くに和のテイストである米の麴のお店があったり、レトロ感満載な質屋さんや古い本屋があったらと思うと、向かいにはきれいな洋服屋さんがあったり、昔からの長屋を使った宿泊所のすぐ近くには中高層のマンションがあるということで、東洋と西洋、食と物販、もしくは新しいものと古いものが混在しているエリアと考えております。また、まちとして新たな動き出しが見えているエリアでもあると思っておりますので、この特徴をさらに生かしながら、一つひとつのお店をのぞいてみたくなるような、わくわく感のある街区になればと考えているところです。

以上、五つのエリアの特徴といいますか、方向付けみたいなものを簡単に説明させていただきました。

19 ページでございます。前回の懇談会でもいくつか同じようなご意見をいただいております。各エリアの連携の必要性と、連携欠かせない基盤となる歴史ある堀、小路、通りについてもビジョンに位置づけるべきということでございましたので、19 ページ以降の各エリアの連携の中に書かせていただいております。

20 ページは、各通り、堀、小路について少し書き込みをしたところでございます。

最後に 21 ページです。将来ビジョンの実現に向けてと書いてあります。あくまでビジョンはランドデザイン、目指すべき方向性を共有するためのものがございますので、ビジョンの中には具体的な事業や取組みを記載する予定はございませんが、前回のご意見の中でも、今後、具体的な取組みの参考になるようなご意見をたくさん頂いております。ですので、ビジョン策定後の検討となりますが、策定の過程の中で頂いたご意見をまとめて、別途、検討時の参考とするためにビジョンの実現に向けてとして、具体的な取組みの方向感を記載したものでございます。頭の部分で取組みの肝となるワードを黄色で入れております。「明るい未来のためにみんなでどう取り組んでいくか？」としております。みんなで、とか、みんながというのを大事にしていきたいと考えているところでございます。その下に 1 から 6 まで項目がございます。各エリアの特性や特徴を個々に生かしながら、本ビジョンの具体化に向けた取組みの方向性の例として記載したものでございます。

資料1と資料2を説明させていただきました。

(座長)

ありがとうございます。これからは、皆さん方からご意見をいただきたいと思います。全体として、議論すべきことは、資料2が最終的に次の回でまとめなければいけないということなので、今日、いろいろな意見を出していただくと、次の回までに反映することができそうだとということなので、このような構成と中身でいいのかという話です。

もう一つは、その中にイメージパースを描かれているわけですが、このような感じのイメージパースでいいのか。もう少し付け加えるべきとか、これだと誤解を与えそうといったことがあれば、そこも含めていただきたいわけです。また、イメージパースに関しては、参考資料の1にあるように、あと3枚作成予定だと。古町花街エリアの夜と古町十字路、全体の鳥瞰図というものがあるので、そこ関しても何か注文があればお願いできればと思います。一番最後は、これは議論の最後にやりたいと思うのですが、参考資料2ということで、先ほどのお話にもありましたが、コンセプトの言葉がいくつか出ているので、どのような感じがいいのかということ、もしここでいい方向が出れば、こちらから提言をさせていただこうと思っています。あとはフリーですので、今日も全員に発言してもらいます。よろしくお願いします。

(迫委員)

皆さん、お疲れさまです。すごく分かりやすくなったなという印象です。私もいろいろと意見を言わせてもらったり、お手伝いをしたのですが、具体的な要素が非常に増えたので、目的を持って動きやすいなと思ったのが率直な感想です。仮で入っている各エリア分けのカタカナ語の表現というか、これは今後ブラッシュアップの可能性が非常にあると思うのですが、こういった表現で、ステーションエリアみたいなものは非常にいいなと思っております。細かいところなのですが、今聞いたところで気になったのは、14ページからエリアごとのビジョンで、写真ではなくイラストに変わったので、イメージが分かりやすくなっていいなと思ったのですが、16ページの古町モールエリアの、2階レベルの賑わいも作るというところですが、新しくハードに手を入れるようなことは、ここはあまりなくてもいいのかなという気が個人的にしました。緑の部分が増えていったりするのには非常にいいなと思うのですが、新たに2階を活用してというようなものは作らなくてもいいのではないかと考えたのと、これを見て改めて思ったのですが、ドカベン像などは非常に話題性もありますし、県外の方は楽しまれていますので、もっと銅像を増やすではないですが、歩いていて楽しいというか、歩くだけでも楽しい空間になっているというのは非常に面白いというか、ウインドウショッピングだけではなく、歩くだけでも楽しめるソフト機能を入れたり、ハードの部分で、銅像がいっぱいあるのだったら、もっと銅像を増やしていくみたいなこともアイデアなのではないかと思いました。

もう1点、17ページの本町エリアのところで、夜市・朝市・軽トラ市などを増やすというのは、

それはそれでいいのかもしれないですけども、既存の出店されているおばちゃんたちの市というのは非常に魅力かと思うので、あちらの後継者づくりだったり、新しい人たちを育てていくとか、あそこの中におしゃれな、自然派の農業をやっている方が出店のところに常に出てくるというのは非常におもしろいかなと思いますし、量がどんどん増えていくと、本町のエリアの4、3、2、1まで伸びてくるというのも、許可されているエリアだと思うので、非常に楽しいなど、この資料を見て改めて思いました。

上古町のところはもう1回検討し直して思ったのですけれども、白山神社という緑にあふれている、だれかが言っていましたけれども、セントラルパークなどというか、まちなかにあだけ緑のある場所があるのに、それがうまく活用できていないところがあるので、もう少し、白山公園と一体になった古町にすると、もっとわくわくするのではないかと思いましたが、先ほど西村さんがおっしゃっていたように、17世紀から始まっているという、非常に価値のある場所を、白山公園などを活用することによって、より価値が高まったり、緑というものが若い人たちにも受け入れるイメージというか機能かと思しますので、もっとソフトを活用することでやれるのかなと思いました。前回の会議よりも非常に明るい未来を感じられてうれしく思っております。

(座長)

ありがとうございます。全体として分かりやすくなったということですね。デッキやテラス席など、改善したほうがいいところも若干あるということですね。そこばかり固定すると、そんなものを作りたいのかとみたいと思われるので、言いたいこととずれるということですね。

(迫委員)

補足ですが、言い方としては、強みの強化という感じですか。どうしたほうがいいのか、弱みを減らしていくというよりも、強みをより強くするという取組みをしたほうがいいのかというニュアンスです。

(小沢委員)

拝見させていただいて、特に違和感を感じないということで、昔からの延長線上にあって今があるわけですけども、現状の特徴を生かしながら、昔あった強みも含めて伸ばしていくということであれば、住んでいる人も楽しみでしょうし、来る人も楽しむ要素が増えるのではないかという気がします。あくまでもビジョンということなので細かなところは別として、規制緩和だとかいろいろ部分もいずれ実行の中でやっていただければと思っております。

20ページの通りのところの2行目、通りに「直行して」というのは「直交」ではないかと思うのですけれども、どうでしょうか。

(座長)

「直交」ですね。

(小沢委員)

小路のところの1行目もそうですよね。

(座長)

通りの2行目と小路の1行目ですね。これを書いた人が間違えて覚えているのですね。

「直交」ですね。そこは訂正ということです。

(長谷川(雪)委員)

確かに見やすくなって、先に頂いた資料と、特にエリアのところはまた訂正になったのでしょうか。すごく考えられていたのだなということが分かりました。そこは言わなければだめかなという、エリアの名前があったので、先に修正されていたので、素晴らしいと思っております。このビジョンの画などで分かりやすくなっていて、イメージがつきやすくなっているというのは素晴らしいと思うのと、先ほどもありましたけれども、ここに書かれていることがどれだけ皆さんにとって強制力を持つのかというのが。ここで挙げて、実際に受け取る方と異なるかもしれないというところは確かにあって、2階レベルもおもしろいとは思いますが、こんなことをやらなければいけないのかと思われる可能性も確かにあるなと私も感じました。あってもおもしろいと思いますが。

お聞きしたいのは、②の古町ステーションエリアのところの、ランドマークとなるシンボリックなものというのは、どういうものをイメージしていらっしゃるのでしょうか。

(事務局)

イメージとしては、これは固有のものでも何でもないのですけれども、電光掲示板みたいな、当然、信号の機能もあるし、いろいろな情報、こちらへ行くと何とかみたいに、電光掲示板的に見れるような、遊びのイメージを持ったものです。ステーションエリアをイメージするような、ここに来ると、いくつかの情報があるといったあたりが分かる場と。ただこれは、現実には国道の上です。でなかなか厳しいとは思いますが。

(長谷川(雪)委員)

あると格好いいなと思います。私は実は、新潟でどこに行けば何があるのかというのは必ず迷うのです。そういう意味では、ここに来さえすれば分かるというのはすごくいいなと思います。

もう一つが、ここら辺の具体性に比べると、19ページがふわっとしているかなと。なかなか具体的にできないのかもしれないのですけれども、その前のところがかなり、こうすればいいのではないかとイメージがわきやすいだけ、少し格差があるようなイメージがしました。どういうことをイメージしているのかということがもう少しあるといいのではないかと感じています。

(座長)

ありがとうございます。最後の点ですが、19ページは確かに、今までの画とは雰囲気が違うのです。これで連携が一体どう図られるのかがよく分からないのだけれども、これは残りの時間で改善しようという感じなのではないでしょうか。

(事務局)

頑張ります。具体的に表現しにくかったものですから。

(迫委員)

19 ページのご提案なのですけれども、地図上で連携させると非常に難しくなると思うので、言葉というか、マップ上ではなくて、例えば人の流れというか、ビジネス系の人はどういう動きをするだろうとか、観光客はこういう流れをするだろうという、組織図的なものというか、地図の上に落とさない関係性というものができるといいのかなという気がします。むりやり地図に落とそうとすると変になるのではないかということで、ここではあえてしなくても、おもしろいのではないかと思います。

(座 長)

ある意味ダイアグラムのな感じで。地図の上に線を引くと、本当にそこかということを検証しなければいけないので、そこはクリアできるくらいにぼやっとした方がいいということでしょうか。

(迫委員)

そうですね。ステーションエリアというものをせっかく作っているので、ステーションからぴよんと飛んで、遠くのほうにバスで行くという画を描けば分かりやすくなります。

(座 長)

もう一つ言われた 15 ページのランドマークとなるシンボリックなものがあるという話ですけれども、本当にこれでいいのかどうか、確認したほうがいいと思うのです。こう書かれると、こんなものを作りたいと思っているととられるので、これがいいかどうかという、そういうことですよね。

(長谷川(雪)委員)

あると確かにいいなとは思いますが。

(宮田委員)

宮田です。古町花街エリア、まさしく私はここで店を営んでいるのですけれども、このように表現して下さったことはとてもありがたくて、常日ごろこういうふうには思っていたのです。でも、ハード面のところではとても私たちではどうにもできない。私たちは自分たちのお店では何とか、常に改装だったり内装だったりをしていかなければ傷んでいきますし、表もそれなりにまちと一緒に歩けるような一つの空間というものがあるので、それを壊さないようにはやっています。あそこは準防火地域なので、正直、私はトイレを増やしたかったのです。けれども、空いているところにトイレを作るとなると、準防火だから、サイディング張りだといわれました。そうすると、むり。お客様に言われるのです。しかし、その範囲の中で何とか作り上げているので、この文章と画で表していただいたということは、私にとっても前進だと思っていて、言った以上は、その方向に進んでくださるかな、一緒に進めるかなと、今、見せていただいています。

確かに、いつか昼間も歩けるようになると思います。お客様が少しの間、まちを散歩するときもあるのです。昨日も新潟に初めて来られた県外の方がいらっしゃいました。いろいろと説明しながら歩くと、こんなに魅力的なまちなのですかと。こんなところは初めてだということをおっしゃいます。私のつたないガイドでもそんなことをおっしゃってくださるので、絶対いけると思うのです。

あとは、古町の2階の部分のスペースということですが、私は昔あったボナプラザという建物を思い出したのです。下にテーブルがあって、緑があって、2階がテラス的になっていて、ショップが並んでいて、今はそれを壊して、パチンコ屋さんか何かになったのでしょうか。あの空間というのはとてもよかったとっていて、そこでお茶が飲めるのです。出されたものを見て、ボナプラザを思い出して、とてもいい空間でした。私はあの地域の古い喫茶店に入ります。最近のところもいいけれども、入ると若い方がああいうところを好んで回っているのです。それから若いファミリーがしゃれたところではなくて、ナポリタンを食べているのです。あの地域というのは喫茶店をとても大事にするところではないかと思っています。

カミフル、門前町ということで、私は毎日あえてここを通って帰るわけです。あえてここをまっすぐ。だんだん見えてくる鳥居の感じというのは、自分が1日仕事を終えて帰っていく、私にとってみたら締め場所と決めていて、ここを通ることはとても大事なことで、下から上に向けて作り上げてもらいたい。先ほど17世紀からというお話はとても重いので。すごく明るい未来が見えてきました。

皆さんでつながっていくというのは、先ほどおっしゃったように、地図ではなく、人だと。人のつながりで少しづつときもあるわけですが、そのところをどうやってつながっていくかというところだと思うのです。

(座長)

ありがとうございます。古町モールエリアのデッキは賛成意見もあるので、消すだけではなくて考えていく必要があるかもしれません。

最初に言われた花街エリアのところの、準防火地区ということがあるので、例えばここに庇を出したほうがいいと書いてあって、やろうとしたら、木造はだめですといわれたら、書いてあることと実際の規制が完全に矛盾しているとまずいので、やるのだったら、本当にやれる可能性があるような、どういう工夫をしたらできるのかと。そういうことがあると思いますので、それをここに書く必要はないけれども、バックデータとしてきちんと確認しておく必要はありますよね。絵空事になって、やろうとしたらできないじゃないかと言われたら意味がないのです。

(小沢委員)

今の意見に同調しますけれども、私も申し上げたように、建物であっても規制緩和とか、もちろん規制は大事ですので、バックデータとして、こういった規制があるがゆえにここは手がつけられないということを全部収集して開放したほうがいいのです。まち遺産の会もありますし、芸妓もあ

りますけれども、やはり古い建物を生かしていきたいといいながらも、それができていないという部分は、何かしらの規制があったりするわけですから、当然、プロが集まって、役所の人でも分かっていますから、そういうものを全部集めた中で最大限、可能性の高いパースにするということがいいと思います。

(座 長)

これができあがった暁には、来年はそういった規制を少しずつ改善していくみたいな作業をやっていただかないといけないですね。これだけ作って終わりではだめなわけですので、それは宿題として残ると思います。

(小沢委員)

一つ確認ですけれども、これは地上だけの話で、今回、ローサというのは関係ないですね。西堀ローサの話は抜けておいて、地上部分だけの話ですね。

(座 長)

それはどうですか。

(事務局)

今はその前提で作っております。

(前川委員)

14 ページからのエリアごとのビジョンを拝見させていただいて、花街エリアに関しては、私のイメージの範疇を超えていて、ほぼこれが具現したらすごくいいなという感覚のものでした。榎谷小路エリアのところ意外に、こういったものが出てきたのだなということで感心してしまっただけですけれども、榎谷小路は駅前からの中心軸で連なって、萬代橋を渡って駅に通じるような形で、こういったイメージは連続してあると、すごく楽しい中心軸だなと思っていたのですけれども、車の通行というのはあまり意識をしなくていいのではないかと。公共交通のバスやタクシーの通行はやはりどうしても必要にはなると思うのですけれども、国土交通省で、今、栗ノ木バイパスの整備をして、柳都大橋につなげて、広小路のほうに車を促して、今、西堀のところに止まっていますけれども、それを将来的には東中通につなげて、古町をずっと車で快適に通ることができるような動線の計画があるという話を伺ったのです。その中で、中心軸となっている榎谷小路に関しては、車両の通行量を減らしていきたいと。萬代橋のところも自ずとそういった形だと思うのですけれども、車の通る機能というものをなるべくそちら促して、どちらかという、こちらの中心軸は歩く人中心のしつらえにしていきたいという方向があるのかなと受け取っていました。極端な話、榎谷小路や萬代橋、東大通りのあたりのところで一体的に何か、今、年間の中でいろいろとイベントを見ていると、新潟まつりと民謡流しとか、市民マラソンといった形で通行規制をして止めているような場所になっているだけの使い方をしているので、もっとメインストリート、中心軸をイベントみたいな形で使えるようなしつらえにしていってもいいのではないかと。今、ビジョンのところで描かれ

ているようなベンチとか、サイクルステーションといったようなものがかなり重宝されていくような感じがあるのではないかと。今回、オブザーバーで新潟国道事務所長がいらっしゃらないのですけれども、たしか今、そういう方向で国のほうも考えているふしがあったと思うので、そこら辺もこの中に反映されるような部分があるといいのかなと思いました。

16 ページの2階のデッキの画なのですけれども、これは初めて見たわけではなくて、たしか6番町でアーケードを新しくリニューアルするとき、こういったデッキがあって、2階の所にも路面のような感覚で行き来できるようなしつらえがあるといいよねという議論が出ていたと思うのです。多分、それを受けて描かれた部分があったのかなと思いました。今、初めてこれがぽっと出てきたわけではなくて、地元の人たちの意向の中でもこういう案があるということで描かれたのかどうかなのですけれども、そういったことはないですか。

(座 長)

この辺のデッキの話はどうですか。

(事務局)

そういったことが背景にあったものでないです。ただ、このエリアの特徴を出そうとすると、天井の高い空間、雨が当たらないような高い空間を何とか使えないかというところからです。

(前川委員)

極端な話、アーケードの屋根を取ってしまって、このデッキのところを反対側につなげてしまって、アーケードの一つの役目みたいな形で、2階も路面みたいな感覚で使えることができたらいねという話をたしか一部の番町でも、オーバーアーケードを持たれている番町ですけれども、話をされていたのを聞いたことがありました。

そういったようなところで拝見して、非常によくまとまってきたなと思ったのですけれども、やはり最後にこのエリアを一つにまとめ上げる作業の中で、いろいろなコンテンツが非常にいっぱい詰まっているようなところを十把一絡げでどのように外に対して表現ができるかを考えたときに、今、思ったのは、中心軸に対して、垂直に広がる何かみたいな感覚なのかなとしか、まだ私の中では組み立てができないような感じですか。あまりにもいろいろな要素が入りすぎて、どこかが途切れてもよくないし、うまいまとめみたいな部分がまだ出てきていないのが正直なところですか。地理的なところの表現で言うところが無難なような感じがするのですけれども、逆にそれがおもしろくないのかとも自分で思っているところです。

(座 長)

魚の背骨みたいな。

(前川委員)

そうです。そういうニュアンスの表現のしかたでいいのかなと。

(座 長)

最後のコンセプト案のところにつながるわけですね。それもまた後で議論したいと思います。

今、おっしゃった中の榎谷小路のところの車線を狭めて歩道を広げるみたいな話は、ネゴシエーションのもとにやられているのか、単なる願望なのか。

(事務局)

単なる願望です。ただ、実態として、柳都大橋ができて、沈埋トンネルができて、榎谷小路に対して、絶対的な、物理的な交通量が減ってきている。交通負荷が軽減してきているだろうということは、素人が見ても分かるので、逆に一つの案として、例えば、1車線潰して、ちょっとした公共空間を作って、そこにテラスを置いたらどうだろうかという提案の一つとして考えています。ただ、1車線潰すということは、相当大変なことですので、ただ、そのような視点でもって、ここをいじっていけないだろうかという思いで書いたものです。

(座 長)

そういうある程度、まだ先が見えないけれども、提案としてやれるということでもいいということですか。現実的には、まさに交通量をきちんと推定して、それでいいのかどうかという話と、もう一つは社会実験みたいな感じで、土日だけ止めてみて、問題がないかとか、それでお店は影響がないかということをやりながらやっていくのしょうけれども、でもそういうことをやろうとすると、これは国道だから、国道事務所との調整も必要だし、あまり国道を勝手に市がいじったみたいな絵をかくと、またどんなハレーションが起きるか分からないので、せっかくオブザーバーで入っていただいているわけですから、もしそういう意向が、将来ないわけではないのであれば、若干調整も必要かという気がします。それはお願いしたいと思います。

(知野委員)

今の榎谷小路につながる場所なのですからけれども、ちょうど大和の跡地で再開発ビルが3月に開業で、4月から新しく古町ルフルが立ち上がるというところの前に、公共空間としての広場が作られる予定になります。ただ、それはまたそれから2年後の使用になりますけれども、まさしく市の方々が一緒に関与されているのであるならば、前面の道路を社会実験なりで止めてみるとか、そこと一緒やる公共空間の広場の使い方であったり、そこからまたローサにつながる。今回は、ローサは入っていないですけれども、その広場からローサにつながる空間。NEXT21にかかわる空間、ルフルに入っている役所の方々たちのつながりも含めて、せっかくこの古町、榎谷小路がメインなので、ほかのところがうまくまとまっているので、もう少しシンボリックな感じのイメージが出るといいなと私も思いました。

レンタサイクルなのですからけれども、またこれも語弊があるかと思うのは、ここにレンタサイクルを置くということは、逆にどこに置くのだろうということが、実際に広場の中でも、トイレを置くだけでもかなりの論争もありましたし、これはどこに置けるのだろうなと思われぬように、きち

んと裏づけがつけられるようであればいいかと思いました。

次の 16 ページの古町モールエリアなのですけれども、こちら先ほどから出ている中 2 階であつたりという話があるのですが、実際にそういう絵を私も見たことがあるのですけれども、喫茶店の多いエリアだということをこのエリアも、自分たちで財産として守っていきたいという言葉も聞いておりますので、その辺は、私も、こういう形を残してもいいのかなと思いました。ただ、オーバーアーケード、今回、7 番町が改修工事をしております。でもそれにはすごいお金がかかりますし、それに対してのいろいろな、周りの商店街の方々であつたり、関わられている方々は、いろいろな思いで作っていると思います。実際に絵をかくのはいいのですけれども、9 番町も 8 番町も、オーバーアーケードではないですが、それを維持しようとする管理の部分であつたり、そういうところの規制緩和だったり、何か補助ができるのかということも流れの中に長く見ていただかないと、この絵だけが進んでしまうのではないかと思いました。古町花街のエリアでは、岡崎先生が花街のところを一生懸命活動されていますけれども、そういう意味では飲食店などの看板も含めて、新しい方々が入ってくると、そういう意味ではネオンがとてもまぶしいところもあつたり、そのように市と一緒にしかかわってくださるのであれば、規制緩和することと、規制をするところの線引きみたいなものの目標であつたり、そういうことも少し取り入れていただけると、いろいろな人とのつながりもうまくやっっていけるのではないかと思いました。

(座 長)

うまく落ち着いた何とかと言葉で書いて、背景にはそういう規制があつたり、もしくは規制緩和があつたりするようなことも想定しながらやれるようなものになっていると。

(知野委員)

あるとそうなのだと受け入れられるのですけれども、なかなか現場の実践では、そんなことを言われても、自分たちの地域で頑張っている、結局、その規制というか、そういうところは個人の範囲になってしまうので、決まっていなくて町内でも言えないし、逆にもっとこうしてほしいのということがあつても、規制があつてできないということもあるので、そういうところも整理しながら、この辺をもう少し考えていただけると、これができたらいいなと思いますので、そこがだんだん詰まっていくところではないかなと思います。

(座 長)

来年の議題がはっきりしてきましたね。

今、花街のことが出ましたけれども、岡崎先生何かありますか。

(岡崎委員)

全体の話ですが、短い期間に素晴らしい資料をまとめていただいて、大変感激しております。今まで開港 150 年ということがよく言われましたけれども、300 年ということがはっきり書いてあるので、それも大変大事なことでいいことだなと思いました。これまで中心市街地ということでは、

たびたび出てきましたけれど、古町ということ前面に出して、古町のということが明記されているということも、すごく新潟のまちづくりの歴史のうえで大事なことだなと思いました。

先ほど、強みを活かしたほうがいいとお話しされましたけれども、もう一つここに書きたいかと思ったのが、どこかに書いてあって見落としていたら申し訳ありませんけれども、よく新潟は老舗が多いと言われます。実際、古町は江戸や明治からの老舗がたくさんありますので、それも強みの一つとして、例えば、5ページあたりなどに書いてもいいのかなと思いました。

先ほどの規制緩和の話、木造建築の話について、3条その他条例がありますし、たしか新潟市でも検討なり勉強などなさっていたような気がしますから、その辺のことを書けるのかどうか分かりませんが、そういう動きとも連携していただければと思います。建築基準法の適用除外の条例がありまして、今、全国各地で進んでいるところです。

あとは先ほどからいろいろ出ている、イラストの位置づけなのですけども、イラストというのは、我々も実際に書くとき、よく怒られて気をつけるのですけれども、絵はかくと一人歩きしてしまって、別にそういうつもりではないのに、特定の部分で拒否されるということが実際にあるので、そのイラストの位置づけはどこかに大きめに説明を、これはどういう趣旨で書いているのだということは、大きく書いたほうがいいと思うのと、やはり人によって考えが違ったり、専門家から見たらいろいろということが個別にはあるので、これは過激かなと思われる、先ほどから話題に出ているような物件に関しては少し慎重に書いたほうが、せっかく皆さんに応援していただきたいものに関して、マイナスな面が出てしまうと、もともとの趣旨とずれてしまうので、あまり冒険しすぎないほうがいいのではないかと思います。

最後、全体にすごく分かりやすくまとめていただいて、21ページの将来ビジョンの実現もまさにこのとおりだと思いますし、10ページのコンセプトも、まさにこのとおりだと。可能性は人というところで、一番下に古町にかかわる事業者や団体、行政も。得意分野を輝かせというあたりです。これを具体的にどうやっていくのかということは、結局、前回も申しあげましたときに、ビジョン自体は大変すばらしいので、これを実際、具体化するときどうやっていくかという道筋を今回のうちに作って、ここにできれば書いていただきたいと思うわけですけども。例えば、まさにこのいろいろな民間の事業所なり、住民の方なり、行政もいろいろな部署がありますよね。都市計画もかかわれば、交通もかかわれば、景観もかかわれば、観光もかかわる、商業もかかわるし。そういうものが連携して古町のことを話し合えるような場。万代や駅のほうでは協議会を作ってやってらっしゃいますけれども、例えば協議会を作るとか、これを具体化するにあたって、たくさんものを全部一気にということは難しいと思うのですけれども、花街なら花街のエリアなどで、具体的に進める組織作りなどを進めていただければと思います。勉強会でもいいし、協議会でもいいし、何でもいいのですけれども、詰めていく組織は必ず必要だと思いますので。

(座 長)

分かりました。それも、また、できてからの宿題になりますよね。来年度、何をやるのかと。

(岡崎委員)

そこもある程度、書き込んでいただければと思います。

(座 長)

組織ができるかどうか。

もう一つ、イラストが一人歩きするのが怖いということで、これはイメージであって、何か具体的な何かをやりたいと言っているわけではないということが、やはり書いていったほうがいいのかもしれないですね。

ほかいかがでしょうか。

(長谷川(正)委員)

この短時間で、よくこのエリアの特長をつかんで、本町としても非常にいいイメージが作れているのではないかと考えています。そんな中で、市役所の中でも、いろいろな課があると思うのです。その課を束ねて、例えば、今日の日経新聞の中に、新潟市は食、自然、伝統文化を知ってという観光エリアを紹介する動画を作るのですよと。まちあるきということにつながってくると思うのです。こういった課と連動した中で、例えば、まちづくりをもっと進めていったほうがいいのかと考えています。

以前、私が先回、言ったときには、空き家対策うんぬんという話はしているのですけれども、これは政府のほうで助成金を出すと言っているのです。こういったことも逐一見逃さずに、例えば、昨日、実は、私は三越を見てきたのですけれども、昔、古町に映画館があったのを知っていますか。ところがあそこの肉屋さんから商店や食べ物屋は全部空き家になっているのです。そうなったときに、これもやはり行政として手をつけていかないといけないのではないかと考えているのです。ですので、課を別にして、先ほど岡崎さんが言ったように、協議会というのでしょうか。これだけせっかくすばらしい資料を作って、先ほど、市役所の人も言ったのですけれども、これからはこれを基にして、民間の企業だったり、あるいは商店街だったり、ここで手を打っていきますよと。それも別に150年かける必要はないと思うのです。来年、再来年でもいいと思うのです。一つずつ、もしその地区で、エリアでできるのであれば。それを参考にして、例えば、本町ができましたら。だったら、古町をこのようにやったのですよと、やりますよと。やりましたと。そのうち、エリアごとでも、逆に言ったら先行してもいいのではないかと考えているのです、まちのためには。ですので、150年よりも、逆に言ったら先手でやって、間違ってもいいじゃないですか。できる、できないではなくて、できるためにどうするのだということを考えていかないと、沈没すると思いますよ。ということで、ひとつその辺りのところをよろしくお願ひしたい。

(座 長)

ありがとうございます。それは来年の大きな宿題ですよ。だから、この中身というか、これができた後、どうするかと。

(迫委員)

このビジョンの中にこのビジョンを誰がやっていくのかというかが非常に欠けているというか、先ほどからの発言を聞いていても、やってくださいねとか、お願いしますでどうするのですかという結構な人が他人事になっているので、それはうまくいかないなという感じがするのです。ですので、これを地域おこし協力隊がいいわけではないのですけれども、やはりもっとスーパーマンを探すというか、ほかから連れてくるでもいいし、もっとキーマンというか、頑張れる人とか、情熱がある人が欲しいなという気がします、私は。ですので、ハードにお金を使うことも大事なのですけれども、そういう可能性がある人たちが集まって、一緒に変えていこうとできるようなしかけというものが、このビジョンの中に少しでも盛り込めれば、光がもっと見えるかなというか、だれがというところがけっこう大きいなと思うのです。

(岡崎委員)

誤解があったらあれですが、私はお願いしたつもりはなく、特に古町花街エリアについては、組織がばっちりできておりますので。あとは我々がいろいろと活動するときに、例えば、行政でいろいろな担当課があるので、それぞれ別々にということはなかなかしんどいものがありまして、だからそういう意味で皆さんと、行政の中のいろいろな部署と、住民としては一応、いろいろなものが連携する組織がすでにできておりますので、その辺と連携させてやっていただければなと思います。

(座 長)

確かにその問題はありますけれども、少なくともこういう議論がオープンの中でできていて、きちんと報道していただけたりするということは、次のステップにつながると思うのです。これはクローズでやってしまうと、何が合っているのか。市役所の中だけで閉じますので、その意味では随分、大きなきっかけにはなるとは思いますけれども。

(前川委員)

中心商店街協同組合の出資したまちづくり会社と古町7番町との今回連携で、経済産業省の観光消費創出事業という事業を申請しまして、今年の夏に採択を頂いて、実は7番町のアーケードの改修と、アーケードの中いわゆるまちの総合案内所。あとは商店街の事務所も兼ねているので、そこに移転するような形になると思うのですけれども、総合案内所というものを作って、これから観光の部分の誘致、観光案内の機能の強化と、商店街として今まで借りていた事務所の場所がホテルの宴会場みたいな場所で、一般の方が接するような場所ではなかったもので、今度はいろいろなお客さんと対面でやり取りができるようなカウンター業務も含めて、そういったようなもの。あとは7番町のところで、いろいろな関連したイベントをこれからしかけるような形で準備をしています。

我々はなぜそういうことをやったかという、今、古町の中で三越の閉店ということが非常に大きなトピックになっていて、来年の3月はかなりそれで話題になると思うのです。我々の中でも、まだ完全に考えが一体としてまとまったわけではないのですけれども、閉店された4月以降は、何かしらの大きな影響は出てくると。空き店舗の部分もそうですし、集客の部分もそうですし、一番大きいのはイメージの部分だと思うのです。それを考えたときに、将来の古町のあり方を考えたときに、対郊外、対万代みたいな形のお客さん集めのことを今までずっと考えてきた中で、それだけの方向で何か有効策があったのかという、多分、なかったのかなと。であれば、新しい顧客を創出する、いわゆる観光みたいな分野というものを強くしていくことによって、我々の身の回りにこういった歴史的なものとか、観光で見回れるような楽しいものはたくさんあるので、そういうものを有機的に関連づけして、まちなかに消費を促すような仕掛けをこれからどんどんやっていこうということで。今、実はそういったようなしつらえの準備をちょうど三越の閉店の前後に併せてスタートが切れるような準備を進めています。

(座 長)

多分、この将来ビジョンもそのタイミングをすごく強く意識して、そのときに将来ビジョンがきちんと出るようにということがあると思いますので、うまく商店街のほうとこういうビジョンが、連携が取れるといいですね。ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。よろしいですか。

(宮田委員)

交流人口というところもあれですが、居住人口というのはとても大事だと思うので、まちの中に。そうすると、居住人口をきちんとするには本町の役割はすごくあるような気がして、本町の役割というか、まちの中に買い物のスーパーなどが離れていたりすると、本町が中心であれば、あそこがやはり居住人口の台所でもあって、交流人口のおみやげの場面でもあるのですけれども。私は昨日もお客様と話していたら、結局、早くおみやげを買えるピア万代と言ってしまうのです。こんなに市場がしっかりとあるのに、そういう状況になっているので、今、こうやって絵をかいていただいて、文章もあるのですけれども、とても大事な場所ではあるなと思っています。

たしか本町辺りもきっとマンションも建つようなこともあると思います。そうするとやはり大事なのだなと思っています。

(長谷川(正)委員)

その他のところで言おうと思ったのですけれども、間違いなく今、本町通では、客数調査と言いますか、ここ二、三年、ずっと伸びているのです。そんな中で、何が変わってきたかといったら、退店したところに新しいものがみんな入っているのです。例えば、この何ページかに、ビジョンのところではなくて、ここに書いてもらいたかったのですけれども、医療、医者。本町はすごく医療がいっぱいあるのです。この前、記者の方が、万代に住んでいるのだそうですが、向こうのほうは

小児科がないのですと。ですので、うちの店の前のところまで通っているのですよと。そういうお客様がいっぱいいるらしいのです。さらにそれと来年の1月、もしくは2月に、鮮魚センターの跡地にお店がオープンということになってくると、間違いなく客足というものは変わります。そんな中で、本町の役割というのは食文化、されどそれだけではないだろうということで。これがもし合体すれば一つの古町に負けないようなものができるのではないかとということで、先ほど、150年も待ってられないということの中で、今回、民間は私だけですよね。いた。要は事業主ですよね。そうなったときに、今、ふと私どもが考えていることは、地元の本町商店街の会長と、今、こんな話をやっているのだと。もっと先に進まないかと。もっと本町、あるいは古町を活性化、新潟島を活性化するために、何かやらないと。だれかが何か一つでもやらないと先に進まないのではないかと考えているので、この場を借りてちょこっとはやっていこうかと思っていますので、もし何かあったらぜひ協力をお願いしたいです。

(座 長)

ありがとうございます。事務局に確認したいのですけれども、前回の議論でも、今、おっしゃったような地元向けのアピールと、交流人口向けのアピールと両方あるのではないかとということでしたよね。それは、例えば、この原稿の中では、どんなところに工夫されていて、両方にうまくケアできるということになっているのでしょうか。

(事務局)

基本的には、どっちつかずの書き方になってしまっているのですけれども、例えば、10 ページのコンセプト、大事な部分の 10 ページのコンセプトの中の方針の2で、住んでよし、訪れてよしという書き方をしているのですが、基本的には、例えば、このコンセプトの使い方なのですけれども、これを単純にこういうコンセプトに向けて、我々まちづくりをやっていきます。一緒にやっていきましょうといったときには、当然内向き。いわゆる住んでいる人、商いをしている人が対象になってきますし、逆に新潟というのはこんなまちづくりを目指しているのですよということを観光に来る人に見せるときには、また違う見せ方。逆に言うと、パンフレットも、同じパンフレットではなくて、外向き用のパンフレットと内向き用のパンフレットで使い分けていかなければいけないかという気がしています。ですので、先日、A面、B面というお話を頂いたのですけれども、それはこのビジョンの使い方によって、それぞれ変わってくるものだと思っていますので、まずこのビジョンの本体としてはかっちり一個のものを作りたいと。ただ、これを外に向けるのか、うちに向けるのかは、逆にこれから作っていこうと思っているパンフレットですとか、概要版ですとか、それかまたもっと小さなもの、若者向きであるとか、見せる相手によって形を変えるものにしていきたい。ただ、中身は基本的には一緒なのですよというところははずらしたくないと思っています。ですので、全体のトーンとしては、住んでよし、訪れてよしのところに書いてあるのですけれども、やはり住んでいる人、来ている人にもきちんと意識はしていますというようなスタンスで作ればと

思っています。

(座 長)

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

(岡崎委員)

人口の話がときどき出ています。交流人口と居住人口という話が出ていますけれども、もう一つ就業人口がありますよね。外から来るのは交流人口として、内側には昼と夜があるので、就業人口、オフィスの割合が増えていると書いてありますけれども、就業人口も相当数いると思うのです。その人たちも大事にしたほうがいいのではないかと。具体的に何をするかということはあれですけれども、それも少し意識してもいいのではないかと思います。

(座 長)

昼間人口ですね。

ほかいかがでしょうか。大体、出つくしましたでしょうか。

今までのところをまとめると、全体としては、ビジョンは分かりやすく、具体的で、よくできているのではないかと。むしろこれをどのように今後、具体化していくのかと。いろいろな規制を緩和したり、強化したり、必要などころとどうつなげていくのかというところが、一つ大きな課題であるので、それは恐らくこれをどう使うかによるから、それは今から準備をしながら、来年度はそこでスタートダッシュが切れるようにしてもらいたいということがあったと思います。

具体的にあとは絵柄に関して、いろいろな意見が出ましたので、古町のところのデッキやテラスみたいなものをどのように扱うのかとか、榎谷小路の扱いです。特に車道を減らすみたいな、割と大きな流れは、車の通行が減っていれば、歩道のほうを広げたいということは、京都の四条通もそうだし、横浜の日本大通もそうですけれども、大きな流れとしてはあるので、そうしたものに向けて、ビジョンを作るのであれば、そういうことが現実化するような道のりも横目で見ながら、ここで動かないと、ここに書いてあることが全くできませんという話だったら書く意味がないので、そのところは気をつけてくださいということがありました。よろしいでしょうか。

それでは、次が参考資料1と2ということで、参考資料1は、まだ今はできていないところですが、これから作りたいという三つのエリアに関して、何かもし注文があれば、こういうことをやってほしいという絵をかくときの手がかりのような話し。参考資料2は、ビジョンの最初にくるモットーみたいなところですが、これは事務局として説明があるのですか。

(事務局)

参考資料2を説明しようとする、なかなか我々も大変なのですが、コンセプトのところ。多分、パンフレットを作ったら一番表に出てくるところ、見やすいところに書かれるであろう文言を整理したい。このパンフレットは、こういうことを言いたいというあたりのことを一つぽんと前面に作りたいのですが、それを作るにあたって案1から案5まで書いてありますが、別にこ

れにこだわっているものではなくて、メンバーで話している中で幾つか出てきたものを羅列したものです。ただ、いかんせん、事務局としてこれだねというものがなかなか絞れなかったものですから、こちらに書かせていただいたというところでございまして、この案1から案2までは、それぞれ、例えば、人に焦点を当てたとか、歴史というところに焦点を当てたとか、子どもたちの発信の中から選んだみたいなものが幾つか混ざっておりますので、この辺りを見ていただきながら、これらはあくまで参考でいかがでしょうかということ。この後ろにくっついている他都市のいろいろなまちづくりの計画も、同じように表題を打ってあるのですけれども、ほかの都市ではこんな表題を打ったのねみたいなのところも参考にとっつけていただいていたというところでございます。

(座 長)

他都市を参考にすると何となく似たようなものになってしまって、新潟の個性がなくなるおそれもありますけれどもね。役所的にはそういうことが心配なのでやってしまうわけですよ。

いかがでしょう。ここで決めるということでもないと思うので、皆様のご意向やご意見を頂いて、こういったことというものがあれば出していただいて、もう一度、次回にもう一回案を出してもらおうということになると思いますけれども、いかがでしょうか。決めようがないですよ。

(迫委員)

難しいなと思って、相談へいらっしゃったときも、難しいですねという話があったのです。でも人がテーマだったりするので、私はこのこだわりと愛嬌というようなものは何となくいいのかなとか、「みなとまち」ということを使いたいのは分かるのですけれども、入れると古町が無理矢理に、古町の人がかじつけられているかなと感じてしまうかと思うので、みなとまちは外したほうがいいかなという気はするのですけれども、でもこだわりと愛嬌というとぼやっとしてしまってねと。よほど上の明るい未来の古町へというところ。明るい未来へ向かおうとするという、明るさと未来は非常に重要だと思うのです。今、暗い話が多いですし、前向きに考えられているというところで、やばいよやばいよが多い感じなので、明るいほうに行こうよというビジョンは非常にいいのかなという気はします。

(座 長)

ありがとうございます。つまり未来志向ということと、人間に意識したような視点のほうがいいのではないかというご意見ですね。

(迫委員)

そうですね。

(座 長)

このように考えたらいいのではないかというほうが、まだいいということですね。あまりこれがいい、これが悪いみたいな話はやりにくいので。何か、例えば今のご意見は、むしろ歴史ということにあまりしぼられないで、未来のほうがいいのではないかというご意見だと思うのです。いかが

でしょう。

(知野委員)

今、五つの中のどれというわけではなく、やはり迫さんが言ったように、明るい未来という分かりやすいものも大事だと思いますし、古町という昔からある、郊外と何が違うのかみたいなところは、ここにある「つながり」という言葉が大事かと思うのです。なぜかという、私も父からとか、その代から古町近隣で商売をやっていて、つながりがあって、古町に愛着を持って何とかしようと思って活動しているとか、郊外では1店舗で終わってしまうところ、江戸時代から続いているお店屋さんも、老舗さんもいっぱいあるとか。ここにいらっしゃる商店街にかかわっている方々は、少なからず、いろいろなつながりの中で動いているのではないかと、「歴史」という言葉が難しいのであるならば、「つながり」という言葉は残すというか、気になるかなというフレーズです。

(座長)

なるほどありがとうございます。

(長谷川(雪)委員)

入れておきたいワードというのは幾つかあって、まず古町という言葉は絶対に入れないとなど。古町は、これは個人的なのですけれども、響きが美しいですし、名前を一種のブランド化していけたらなという気持ちもありますので、これは残したいということ。それから、このコンセプトの後、方針だったら可能性は人というところで、人を大事にしているというところですよ。ですので、先ほどおっしゃっていた「つながり」という言葉もよろしいのではないかと感じておりました。

ここが迫さんと違ってしまうのですけれども、外に出すときに、古町のイメージというか、これから向かうところもそうなのですから、どういうまちなのかというものが分かったほうがいいのかなと。そうすると歴史が欲しいなという気もします。実は長くなるのですけれども。

(座長)

人も歴史も古町という固有名詞もと。

(長谷川(雪)委員)

そうなのです。私の案もこの中で一番近かったのは案4だったので、1か4かなくらいな感じで実は感じておりました。

(座長)

ありがとうございます。気持ちは分かります。

(岡崎委員)

外の人に対してもですし、違うというか、新潟市民全体に対してもだと思っておりますけれども、結局、新潟市にとって古町って何なのだとということが分かるとういかなと。

(座長)

全体にとっての古町の位置づけみたいなものですね。

ほかはいかがでしょうか。

考えている間に、私も言わせていただくと、これは個人の意見なのであれですけども、実は古町というような町名がついているまちは、日本じゅうでそんなに多くないのです。ありそうでないのです。多分、県庁所在地だと熊本や松山。でも、松山は「こまち」と呼ぶのではなかったかな。あまりないのです。だから、そのまま訳すとオールドタウンなのだけれども、オールドタウンという名前を持っているまちはあまりないのです。なぜか知らないけれども。熊本の古町は古くないのです。新町のほうが古いのです。信じられないでしょう。新町ができて、その後で古町ができたのです。そんなこともあるので、古町が必ずしも古いとも限らないです。古町がオールドタウンで、先ほど、岡崎先生がおっしゃった、あるまちの中の位置づけというもの。言葉が、固有名詞が表しているので、外から見ておもしろいのは、古町というのは通りの名前でもあるし、もっと広い名前でもあるじゃないですか。これもめずらしいのです。だから、広い名前で使えて、通りの名前が同じもので、そして皆さん今イメージがあると。みんな共通したイメージがあるというのは、それもある種、文化的な蓄積なのです。だから、そういうものがうまく言葉の中にあるかなという感じがしているので、固有名詞としてすごくいい言葉だと思うのです。

(岡崎委員)

今の西村先生にお話に触発されて、私も常々不思議に思っていたのですけれども、古町っていつから古町と言っているのだと。今、調べているのです。結局、基の言葉は、古町通ですから、本町通に対して古町通。新しい本町通に対して古い本町通の古町通ですよね。だから、それを本当は通りなのだけれども、でも、1番町は言うかもしれませんけれども、13番町を古町とは言わないわけですよね。だから不思議でいつから古町ってできたのか。これは難しいけれども、そもそも古町って何だ的な話も少しだけあったほうがいいかなと。アイデンティティですから、古町って何だというのは、少しあったらいいかと。本町通も古町ですからね。だから、おもしろい、すごくめずらしい読み方だと思います。

例えば、天神だったら天神という住所があるし、銀座など住所があるわけですけども、古町という住所はないのですよね。古町通はあるけれども、古町はないのです。だから、これはおもしろいと思います。

(座長)

禅問答みたいになっていますけれども。

(岡崎委員)

歴史文化課に聞いて、ちょっとあれすればいいですよ。

(座長)

どれくらいこだわりがあるのか。ほかはいかがでしょうか。何でも構いません。

(小沢委員)

この五つの案にこだわらなくてもいいでしょうか。

(座長)

これはこだわらなくていいのです。

(小沢委員)

幾つか出ているキーワードを拾っていただいて、またこねてもらわなければならないのではないですか。

(座長)

考えてくれということですね。でも、「人」というキーワードは、けっこういろいろな方がおっしゃっていましたよね。一番に人が住んでいるわけですからね。

(迫委員)

コンセプトですものね。今回のビジョンのコンセプトですからね。特長を伝えるということとまた違って来るわけですものね。一緒なのかな、違う。

(座長)

ある種、これのスタンスですよ。どちら向きに今、我々このように議論しているのは、みんなある種、ここをこうしたいみたいな方向性があるじゃないですか。その方向性を一言でいうとというようなことだと思うのです。

(迫委員)

古町は昔、にぎわっていたという前提があって、復活したいわけですよ。新しく何も無いところをいいまちにしようということとはまた違うのが、古くからある特長なので、古町再興みたいな文字面だと響きもいいし、最高ともかかっている、分かりやすいというか、キャッチコピー感はあるなという気はしました。

(知野委員)

ルフル (REFURE) がそうですね。Re (再生) FURU。

(座長)

再興のReなのですか。

(知野委員)

再びね、もう一回、古町。それでREFURUと。

(座長)

それを漢字で書くと古町再興みたいな。あまりイメージがなかなか。何かありますか。これに限らず、いずれにしても、次回が最後なので、今日、言っておかないと、原稿として反映できなくなると思います。ご自由に何でも構いませんので、これだけはどこかに入れておいてほしいということがあれば頂きたいと思います。いかがでしょうか。

(迫委員)

細かいところでまた戻ってしまうのですけれども、せっかくなので。ステーションエリアは非常にキーになると思っていて、ステーションエリアの絵の中に真ん中のところにこういう情報が見えるものというよりも、BRTだったり、バスステーションがしっかりあるということが強みだと思うので、それを分かりやすく書いてもいいというか、ここはバス停ですよとか、ここが拠点のステーションで、今度、案内所ができるということもあるので、ここに案内所機能があって、ここがもう一回、入口ですよというようなものがここに見せられると、大きくバスと書いてあるだけでも、新潟は何台もバスが通っている、来たり出ているというものがあれば、イメージが変わるかなという気はしました。

(座長)

ありがとうございました。ほか何かあれば。

(宮田委員)

とても抽象的なことで、旅の方やまちに来る方を私は接する場面があると、一人で旅に来られる方も、大勢で来られる方も、やはり人と会話を望んでいます。人と触れあいたいということはとても感じるのです。なぜ一人で旅しているのか、一人でいたいからなのと思うのではなく、お見えになるとやはり言葉をかけると楽しんで帰られますから、やはり「人」というワードは大事なのだなと。つながる人ということは。温かいという言葉に包まれることとか、そういうことはとても大事なのだと思うのです。というのは感じます。それをどう形にということは、私も難しいことなのですけれども、そういうことは、日々感じていることをお伝えしたいと思いました。

(座長)

一人旅の人は、人と接したくないから一人旅しているということではなくて。

(宮田委員)

ではないです。そこからつながっていく、膨らんでいくものを求めてきています。だから、「人」というのはとても大事なワード。「つながり」というワードはすごく大事だなと。やはり温かさを求めてきています。だから新潟の人がいい人、やさしい、親切だと言われるのです。旅の人だったり、仕事で住んでいる人。また、遊びに来てくれるのです、自分の仲間を大勢連れて。そこは推していいかと思うところではあります。

(岡崎委員)

今朝も古町花街の会の定例会をやっていたのですけれども、東新道の鍋茶屋さんの前を歩いていたら、どこからの出張のサラリーマンか何かの感じの方が、見ながらこんなにいいところをもっとアピールすればいいのと言っていましたけれども。やはり東京のお客さんなどを案内すると皆さんそうおっしゃるのです。だから、地元の我々が思う以上に魅力があるところなので、ぜひそれを磨けば、今、ものはあるけれども、とにかく磨いてアピールしないと、ということなので、ぜ

ひ具体的な道筋を作っていただいで。前回は申しあげたことですが、観光も文化財も都市計画も一緒にできて、住民も行政も一緒にできるとすれば、かつ古町と西大畑と下（しも）と白山エリアと連携してなれば、やはり歴史まちづくり法しかないと思いますので、ぜひご検討お願いしたいと思います。

（座 長）

ありがとうございます。ほかいかがですか。

（小沢委員）

10 ページのコンセプトですが、方針の中の2番なのですが、住んでよし、訪れてよしの「ちょうどいい」まちと書いてありますけれども、住んでよしということも、いわゆる「良」という字ですよね。訪れてよしも「良」だし、ちょうどいいということも「良」と書いていいと思うのです。だから、感じをそろえて韻を踏むみたいなこともいいのかもしれないね。

いちばん最後の文に、みんなが気持ちよく過ごせる、気持ちよくというのは、心地よくというほうがいいかなという気がします。

（迫委員）

2番のよしよしのところは、途中に出てきた働いている人も多いというか、働いてもよいというか、その要素を入れるとビジネスマンの方も多し。働きやすいですね、バスもしっかり通っていて、出勤もしやすく。そういうことを文書の中でもいいのですけれども、入るといいのかなと。

（小沢委員）

やはり商売をやっている人が楽しまなければだめですね。

（迫委員）

そうですね。そこは本当に強みかなというか、特に車でないと行けない職場よりは。

（座 長）

住んでよし、訪れてよしは古くからある言葉なので、働いてもよしというのは、なかなか今までない言葉なので、なるほど。ほかいかがでしょうか。

（知野委員）

働いている方々が古町に来るとね。働いている人たちが古町を作って、古町で営んで、古町で生活してということが、全体にバランスがいい時代の感じですね。

（座 長）

ほか何か。コンセプト案はなかなか一つには決まりませんが、事務局で悩んでください。楽しい悩みじゃないですか。難しいことを二律背反的なもので妥協案を探せということではないのだから、先ほど言った、特色があるものをいかにもう少し前に出すかという話しですから、楽しみながらいいアイデアを出していただければいいと思います。

そんな感じで、何かこの際、ぜひというものがあれば。よろしいですか。それでは、そろそろ終

わりが近づいてくるのですけれども、テーブルの上に補足意見についてという紙が、前回と同じように置いてありますので、今日以降、思いついたということがあれば、送っていただければ対応していただけるということですよね。これでファックスでもいいし、最近、ファックスはあまり使わなくなったみたいなので、メールでもいいので、何でもかまいません。実際、今回も前回後、寄せていただいた意見に関しても、対応していただいています。今日の資料1でいくと、緑です。開催後の主な意見というのはそういうことです。その後、頂いた意見に対応する対応欄ということですので、よろしくお願ひしたいと思います。

全体として、今日、いろいろ出ましたけれども、今日、出た意見と補足意見として提出されたものを合わせて、事務局のほうで整理いただいて、将来ビジョンに反映していただくということで、次に進めたいと思います。事務局としては、そんなところでいいでしょうか。

それでは、進行を事務局へお返ししたいと思います。

(司 会)

皆様、まことにありがとうございました。

事務局より、次第3その他として、今後のスケジュールについてご説明申し上げます。次回、最後の懇談会となります。第3回目の懇談会につきましては、先日、メールでご案内させていただきましたが、来年、令和2年2月28日(金)午後2時から2時間程度で開催させていただきたいと考えております。会場や資料などの詳細については、後日、改めてご連絡させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

最後に、中川統括政策監より閉会のごあいさつを申し上げます。

(統括政策監)

本日は長時間にわたりまして、ご議論いただきまして、ありがとうございました。また、非常に宿題もいっぱい頂いたような気がしていますが、頂いたご意見を当然一つ一つ大切にしながら、次の資料に反映させていきたいと考えております。一生懸命、考えて作りますので、また今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

本日は、どうもありがとうございました。

(司 会)

それでは、予定の議事をすべて終了いたしましたので、本日の懇談会は以上をもちまして、閉会とさせていただきます。

本日は、お忙しいところ、まことにありがとうございました。